

備えのおかげ

台風や豪雨、年々威力を増し続ける自然災害には“日々の備え”が重要となります。
台風シーズンが来る今こそ、今一度ご家庭の防災について考えてみましょう。

自分の「命」は自分で守る！

6月に発生した台風2号では、台風周辺の湿った空気の影響で梅雨前線の活動が活発となり、関東でも激しい雨が降り、県内各地でも浸水被害が出ました。当市においても大雨警報が発令される事態になりました。

災害発生の可能性が高くなるこれからの季節で大切となるのが、日頃からの備えと防災の意識です。

防災に関する考え方は様々ですが、防災を考えるうえで必要な3要素として、自分や家族を自ら守る「自

助」、地域の人々が協力して助け合う「共助」、公的機関が救助や支援をする「公助」があります。

全員が被災者になった現場の「公助」には限界があり、「あの時備えておけば・・・」と後悔しても取り返しが付きません。

自分や大切な人の命を守るのは、自分自身。そこで、まずは自助の意識を持つことが大切になります。

災害はいつ発生するかわからない 日頃の備えを心がけよう

台風シーズンが到来します。台風や豪雨で避難が必要になった場合を想定して、もしもの事態に備えましょう。

ステップ1 家の外の備えを行う

- ☐ 窓や雨戸は鍵をかけ、必要に応じて補強する
- ☐ 側溝や排水口は掃除して水はけを良くしておく
- ☐ 風で飛ばされそうな物は固定したり、屋内へ格納

ステップ2 家の中の備えを行う

- ☐ 非常用具の確認
(懐中電灯、携帯用ラジオ、救急用品など)
- ☐ 窓ガラスに飛散防止フィルムやテープなどを貼ったり、カーテンやブラインドを下ろすなど
- ☐ 断水に備えて飲料水や生活用水の確保
- ☐ 非常用食品の準備

ステップ3 避難場所の確認を行う

- ☐ 避難場所への避難経路を確認
- ☐ 家族で避難場所や連絡方法などを話し合っておく



災害時における避難所

ステップ4 避難のタイミングを逃さない

避難情報が発令されたら行動を開始しましょう。

警戒レベル	状況	とるべき行動
4	災害発生の恐れが高い	危険な場所から全員避難
3	災害発生の恐れがある	危険な場所から高齢者、障がい者や乳幼児などと、その支援者は避難
2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認

ステップ5 情報収集を行う

台風や豪雨から身を守るためには、気象情報や避難情報が鍵を握ります。

- ☐ 防災行政無線
- ☐ ラジオ・テレビ
- ☐ 市ホームページ・SNS
- ☐ エリアメール
- ☐ 登録制メール
- ☐ Yahoo! 防災

災害への備え、できていますか？

大規模な水害やその他の災害が発生すると、電気やガス、水道などのライフラインが止まってしまう可能性があります。

また、物流機能の低下などにより必要な生活用品が手に入らなくなってしまうことも考えられ、災害発生後に自分や家族に必要な物資を揃えるのは困難になります。

そこで、今から災害に備え、飲料水や保存の効く食料などの備蓄をしておきましょう。

また、備蓄品のストックがあれば、自宅から避難が必要になった場合にも必要なものを持ち出すことができます。

備蓄品の準備をする際は、ご自身の健康状態や家族構成などを加味するようにしましょう。

家族構成に合わせた備蓄品の例

乳幼児がいる場合

粉ミルク、哺乳瓶（消毒セット）、離乳食、紙おむつ、おしりふき、おもちゃ、母子手帳など

要介護者がいる場合

介護用品、入れ歯、補聴器、大人用紙おむつ、補助具の予備、障がい者手帳など

常用薬が必要な場合

最低3日分の薬、お薬手帳など

妊婦がいる場合

生理用品、ガーゼ、さらし、新生児用品、母子手帳など

ペットがいる場合

ペットフード、ペット用品、（食料、トイレ、リード、ゲージなど）、飼い主の連絡先など

食料・飲料・生活必需品の備蓄の例

（人数分の準備をしましょう）

食料・飲料・生活必需品などの備蓄

- ☐ 飲料水 3日分（1人1日3ℓ）
- ☐ 非常食 3日分（ご飯（アルファ米など）、ビスケット、レトルト食品、板チョコ、乾パン等）
- ☐ トイレットペーパー、ティッシュペーパー
- ☐ マッチ、ろうそく
- ☐ カセットコンロ

※大規模災害時には「1週間分」の備蓄が望ましいとされています。

※飲料水とは別に、トイレを流したりするための生活用水も必要です。

非常用持ち出しバッグの準備

- ☐ 飲料水、食料品（カップめん、缶詰、ビスケット、チョコレート等）
- ☐ 貴重品（預金通帳、印鑑、現金、健康保険証等）
- ☐ 救急用品（ばんそうこう、包帯、消毒液、常備薬等）
- ☐ ヘルメット、防災ずきん、マスク、軍手
- ☐ 懐中電灯、携帯ラジオ、予備電池、携帯電話の充電器
- ☐ 衣類、下着、毛布、タオル
- ☐ 洗面用具、使い捨てカイロ、ウェットティッシュ、携帯トイレ

※乳児のいるご家庭は、ミルク・紙おむつ・ほ乳びんなども用意しておきましょう。

これだけは準備しておこう！



危機管理監に聞く!!

「命」を守る備え! ~自主防災組織結成のススメ~

自主防災組織で災害に備える

市では、自然災害時（地震・風水害）の備えとして、地域住民が家族や地域の命を守るための「共助」を生かす自主防災組織の結成を推奨しています。

防災の基本理念として、「自助」は自分の命は自分で守る。しかし、ひとりでできることには限度があります。また、「公助」は国・県・市による救助等ですが、広域的な災害では道路崩壊や渋滞などですぐに助けてくれるとは限りません。

平成7年に発生した阪神・淡路大震災では、倒壊家屋により閉じ込められた方が約3,500名いました。そ

の被災者をだれが救出したかという点、消防・警察・自衛隊によって救助された方が約2割で、ほかの8割の方は地域の住民によって救助されました。

このことは、日常の地域のつながりや頼れる地域住民の存在があったからだと考えています。

自主防災組織は、地域のつながりによって、迅速な対応や、優しいきめ細やかな対応、そして絆による対応ができ、家族や地域の命を守ることができる重要な組織であると考えています。

自主防災組織に期待する役割

現在、本市では小学校区単位での自主防災組織の結成を進めております。

自主防災組織に期待する役割として大切なことが3つあります。

1つ目は迅速な連絡体制の確立になりますが、小学校区内には様々な団体が活動しており、小学校区単位で自主防災組織の結成をすることにより、各団体からの情報を地域全体で共有することができます。

2つ目は地域の防災力の強化になりますが、消火活動や要配慮者の救助・避難、避難所の設営・運営、公助機関との連携などのほか、災害時を想定した、各種訓練への参加により、地域の防災力の強化になります。

3つ目は避難行動要支援者の安全確保です。

地域の連絡体制の強化と防災力の強化により、高齢者・障がい者・妊婦・乳幼児など、災害時に自力での避難が困難な方の支援を行うことができ、逃げ遅れ者をなくすことが期待されます。

異常気象による「風水害」や高確率で発生が予測されている「地震災害」などの備えとして、自主防災組織の重要性をご理解いただき、自主防災組織の結成促進にご協力をお願いします。

常総市危機管理監
鈴木 美知夫



防災情報はここから！

情報収集の方法を
確認しましょう。



詳しい災害情報を知りたいとき

常総市公式ホームページ



屋内・屋外でも情報収集できます

防災行政無線

ホームページで放送内容の確認ができます。



災害に関する情報を迅速にお知らせします

防災ラジオ

聞き逃しても、もう一度聞きなおすことができます。



電話で防災行政無線の確認ができます

テレフォンサービス

連絡先：0297-22-8778



登録したアドレスにメールで情報配信

登録制メール



様々な情報をお届けします

常総市公式 SNS



市内の携帯電話へメールで一斉通知

エリアメール（緊急速報）

市内にいる方は、プッシュ型で情報を
受け取ることができます。

地域密着型ニュース速報アプリ

NewsDigest (ニュースダイジェスト)



スマートフォンで防災速報

Yahoo!防災速報アプリ

登録しておくで、防
災情報がプッシュ型
で受け取れます。



◆問い合わせ＝☎防災危機管理課(内線2210)